えんがわ通信

「えんがわ」は、
被災者の仕事に関する支援を行う施設です。
その名前には、人と人とのつながりが生まれ、
「縁」が「輪」のようになって広がってほしい
という願いが込められています。

第５号　２０１２年５月
発行＊一般社団法人パーソナルサポートセンター
就労支援事業部
住所／仙台市太白区あすと長町４丁目3-20
電話／０２２－３９８－８７４７
WEB／http://www.personal-support.org/

被災地を語る④

直面している被災者の悩みは深刻。生活再建のため「働く場」開拓したい。

一般社団法人 パーソナルサポートセンター
立岡　学　理事

PSCは社会的困窮状態にある人たちを支援するために2011年3月3日、困窮者支援をしている団体を中心に様々な分野のNPOと仙台弁護士会の有志などによって、設立、登記されました。

設立からわずか8日後に東日本大震災が発生しました。

そこで急きょ、全国各地から応援にやってきた仲間たちとともに、炊き出しや支援物資の配送などに取り組むようになり、団体としての支援がスタートしました。

4月下旬からは、太白区あすと長町の仮設住宅居住者の引っ越しを手伝うなどの支援に乗り出しました。6月には仙台市の委託事業として本格的に、市内の仮設住宅、公営仮設住宅などの見守り事業を始めることになりました。

居場所づくりと就労支援を目的に、5カ月後の11月にはコミュニティ・ワーク創出事業部を立ち上げ、さまざまなイベントやワークショップに取り組むようになりました。

最初に動き出した「見守り」事業では、今も50人近くの絆支援員が、プレハブ仮設を中心に約650世帯の見回りを続けています。

事業では、仮設住宅に住む方々の生活相談に加え、福祉機関などにつなぐ役割も担っています。

これまで、絆支援員たちの活動によって、孤独死を防いだ例もありました。さまざまなことがありましたが、仮設住宅入居者の中で今も、死者が出ていないことは、幸いなことだと思っています。

コミュニティ・ワーク創出事業部ではこれまで、少しでも仮設住宅やみなし仮設住宅に住む方々の収入が確保できるよう、ぬいぐるみの製作や市の復興定期便の封入作業などを行ってきました。顔なじみの方も増えており、今後も、続けていきたいと思っています。

震災から1年が経過し、みなさんが直面しているさまざまな悩みは深刻さを増しているように感じています。

生活を再建するためには、まず働く場所と収入が必要という考えから、PSCでは5月に就労支援事業部を立ち上げ、6月に青葉区二日町で就労に関する本格的な相談業務を始めたいと思っています。

みなさんのお話をうかがいながら、多くの企業や団体などに呼びかけ、連携しながら、新たな「働く場」を開拓していきたいと考えています。

できるだけ多くの人が生きがいを持ちながら、前を向いて歩み、そして生活再建ができるよう、さまざまな支援をしていきたいと思っています。

農業プロジェクト本格スタート

宮城大PSCなど　土とふれあい　作業に汗

一般社団法人「パーソナルサポートセンター」と宮城大学食産業学部は5月8日、太白区坪沼の同大学研究農場で、季節に合わせてさまざまな野菜作りをする「農業体験」を開始した。

久々の作業に汗を流す参加者＝太白区坪沼農場

事業は、被災者に農業を体験してもらうのが目的。市内の仮設住宅居住者らを対象に、5月から11月まで7カ月間、同農場職員の指導で、ネギやトマトなど季節に合わせた野菜を栽培するほか、毎月1回、同大学の太白キャンパスで味噌やソーセージなどの加工体験を行う。

初回となった8日は、あすと長町の仮設住宅居住者を中心に7名が参加。これからほ場として使うエリアの草取りと土ならしを行い、草が生い茂る中、参加者同士で仕事を分担しながら笑顔で作業を行った。

参加者は、「農作業をするのは小学生以来」「仮設にいると体を動かす機会がなかなかないので、毎週の作業が楽しみだ」などと話しながら、汗を流した。

このほか、15日にはエダマメの種まきを実施。28日には太白キャンパスでソーセージの加工体験が行われた。

今後の農業意見を交わす

8日の体験後に行われた参加者の交流会では、当日の振り返りや被災地の農業に関する意見交換が行われた。やり取りの一部を紹介する。

◇

―PSC担当者　今回参加した動機をお聞かせください。

70代女性　震災前は農業をしていた。しかし、震災によって続けることができなくなり、その後、ずっと心残りなままだった。そんな時に、今回の農業体験の募集チラシを見つけ、参加した。

50代女性　これから、農業の後継者を増やしていくためにも、自分自身が教えられるようになりなければと思うようになり、応募した。

―PSC担当者　被災地の農業には、さまざまな問題があると思う。実際に農業を体験してみてどう感じましたか。

70代男性　農業だけで生計を立てていくのは大変だと感じた。天候にも影響されやすく、長期間に渡って行う作業なので、辛抱強く続けていかなければならない。

70代女性　減反政策をはじめ、日本の農業はたくさんの問題を抱えている。原発によって農業が出来なくなった人がかわいそうだ。

封入手伝い募集

PSC就労支援事業部は6月20日から3日間、実施する仙台市の「復興定期便」封入作業従事者を募集する。

今回は震災発生時に【若林区】に住んでいた被災者を対象。会場はコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」で、参加者には1回あたり2000円相当の商品券を謝礼として支払う。

申し込みはPSC就労支援事業部・担当千葉080（4426）9824まで。

1割超が「求職中」調査結果速報値

PSCはこのほど、仙台市内に住む被災者を対象に実施した今後の居住と就労に関するアンケートの調査結果を集計（単純集計）し、その速報値をまとめた。

集計によると、借り上げ民間賃貸住宅（みなし仮設住宅）の居住者で「求職中」と回答したのは、有効回答で11・5％、プレハブと借り上げ公務員住宅では16・9％と全体の1割を超え、支援の必要性があらためて浮き彫りになった。

調査は厚生労働省の「社会福祉推進事業」の一環で実施。仙台市内のプレハブ仮設や民間の賃貸住宅などに住む約5000世帯を対象に2月下旬、調査票を配布し、1877人から回答を得た。

「えんがわ」な人々⑤

岡本　裕野（おかもと　ひろや）

証券会社で昨年10月まで法人営業をしていました。経営者から復興事業や被災地の状況を聞くことが多く、緊急的な物資支援などではなく、就労支援が被災者にとって一番必要だと感じるようになりました。

そうした中で、間接的なかたちではなく、直接、震災復興に関わりたいという想いが次第に強くなり、縁あって昨年11月にPSCに入社することになりました。

これまで「えんがわ」では、ぬいぐるみ作りや農業体験のプロジェクトを担当し、多くの方々と直接関わることで、たくさんの笑顔に出会うことが出来ました。

今後は被災地に適した新たな就労支援の形を作り、より多くの方を支援していきたいと考えています。

コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」までのアクセス

JR長町駅・地下鉄長町駅から徒歩7分

ピームーシー製作第２弾始動

5月下旬に買い取り

品質高め商品化目指す

NPO法人「アース・アイデンティティ・プロジェクト」（EIP）などは、仙台市内の被災者らを対象に昨年12月から、今年の2月末まで実施した「ピームーシー」製作の第2弾を4月23日に始めた。今回は「えんがわ」に加え、宮城野区中野の「仙台港背後地6号公園仮設住宅集会場」でも、製作説明会を行なった。

6号公園が13人、「えんがわ」が22人、それぞれ参加、EIPの河原裕子会長が今後の製作のスケジュールなどについて説明。縫製専門家で青森中央文化専門学校教諭の佐々木美保子さんが、製作方法について指導した。

今回は、29人が作り手として、製作することが決定。約1カ月間製作を続け、5月末にEIPが1個当たり約500円で買い取りを実施した。

今回のピームーシーはイタリアのミラノで開催されるジャズコンサートで、来場者に配布される予定だ。

初めて参加する6号公園の仮設住宅に住む女性は「ちょっとした収入につながるような仕事は今までなかったので、非常に嬉しい」と話していた。

縫製の専門家の指導で品質を高めて、仙台発のソーシャルビジネスとして商品化することを目指す。

専門家の指導の下、ぬいぐるみを製作＝仙台港背後地６号公園仮設住宅集会場

ピームーシー

平和と無私の心を伝える天使。キャラクターは「I♥NY」のデザインで知られるミルトン・グレイサーが考案。震災後の被災女性の仕事を創出しようと、アース・アイデンティティ・プロジェクトが製作を指導するとともに、買取りを進めている。

故郷の料理話題に料理教室を開催

月刊誌「婦人之友」（婦人之友社刊）の読者で組織する「仙台友の会」（太白区）は4月25日、「えんがわ」で、仮設住宅入居者ら被災者を対象に料理教室を開いた。

同会は震災直後から県内各地で物資の配布や茶話会などの被災者支援を展開しており、料理教室もその一環。教室は仮設住宅入居者の居場所づくりと栄養改善が目的だ。

この日の献立は、サバ缶を利用した魚飯など、全5品。教室に参加した仮設住宅入居者ら9名は、それぞれの故郷の家庭料理について話題にしながら調理を楽しんだ。

「仙台友の会」料理教室は毎月1回「えんがわ」で実施。次回開催は6月13日（水）を予定している。参加受付は先着10名で参加費は200円（実費）。申込み・問合せは「仙台友の家」022（308）5009まで。

「えんがわ」のつぶやき　一歩踏み出す場つくりたい

午後9時すぎ、大勢のサラリーマンが行き交うJR仙台駅構内で、周囲を気遣いながら、スーツケースに身を隠し、若い男女のカップルがウエットティッシュで体を拭う。周囲には、段ボールを地べたに敷き、体を休める数人のホームレスの人たち。4月から、仕事帰りに見かけるようになったカップルだ。

20代前半とみられる若い2人が、どこから来て、どのような生活をしているのかは、知るすべもない。しかし、長く風呂に入っていないだろうことは、その行動からも想像できる。

ちゃんとご飯を食べることはできているのだろうか、寝ることはできているのか―2人を見る度に心配になるのと同時に、そうなる前に、どうして誰も手を差し伸べることができなかったのか、団体としても考えなければならない課題だと思っている。

仮設住宅、みなし仮設住宅などに住む被災者の方々の中にも、雇用保険の失業給付期間が終わったり、生活資金の残りが少なくなったりして、今後の生活に不安を感じ始めている人も少なくないだろう。当面の生活はできても、働き口がなく、先行きが不安という人もいるかもしれない。

「もう生活に余裕はない」「もう限界」という悲痛な声を聞く機会が以前にも増して、多くなった。「えんがわ」にも3月ごろから、今後の生活について、相談のために足を運んでくれたり、電話をしてきてくれたりする人たちが増え、一日も早く、多くの被災者の働き口を確保しなければという想いを強くしている。

PSCでは5月、「就労支援事業部」を立ち上げ、現在、青葉区二日町に相談スペースを開設するための準備を進めている。順調に進めば、6月中にも業務を本格始動できる見込みだ。

そこでは専門スタッフがみなさんの悩みに向き合い、問題解決の糸口を探る。同時に、さまざまな団体、機関と手をたずさえながら、働き口の確保を目指す。トレーニングの場としての機能も用意する考えだ。

「働く意欲はあるけれど、実際に働くとなると、ちょっと心配」「自力で仕事を探してるけど、望んでいる仕事に就くことができない」という方々にとって、新たな「一歩」を踏み出す場となればと思っている。次号で「本格始動」の知らせを見て、ひとりでも多くの方が足を運んでくれることを望む。（B）

TOPICS（6月）

1 就業やキャリア等に関する個別相談

専門のカウンセラーによる、職業や進路・キャリア等に関する個別相談（１人５０分）を行います。（就職のあっせんではありません）

■日時：6月２１日（木）１０：００～１８：００
■場所：ＡＥＲビル６階 情報・産業プラザ
■対象：① 学生・求職中の方 ② 在職者（30代まで）
■定員：２８名
■申込締切：６月１４日（木）必着

2 営業マインドセミナー

業種問わず求められる営業職への関心を高めるセミナーを行います。※営業社員講話などを予定。

■日時：7月6日（金）、7日（土）10：00～17：00
※2日間の受講となります。
■場所：ＡＥＲビル７階　会議室
■対象：求職中の方、大学・短大・専門学校生
■定員：４０名
■申込締切：６月２９日（金）必着

※いずれも、雇用保険の失業認定の際に求職活動実績として申告できます。

■申込方法：郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、郵便・FAX・Eメール等でお申込み下さい。締切後に応募者全員に決定通知書をお送りします。（応募多数の場合抽選）
■お問合せ先：仙台市産業振興事業団
TEL：022-724-1212、FAX：022-715-8205
Eメール：koyoushien@siip.city.sendai.jp

のびすく仙台

◎利用できる人　主に乳幼児とその家族
◎住所　仙台市青葉区中央２丁目10番24号
（仙台市ガス局ショールーム３階）
◎問い合わせ　TEL：022－726－6181
FAX：022－214－5071

「babu＊スペース」（申込み不要）

０才児親子のためのスペースです。のんびり、ゆったりおしゃべりもOK。お友達づくりにもどうぞ。

■日時：６月２０日（水）９：３０～１１：３０
■場所：のびすく仙台こどもひろば
※10：00～ベビータッピングタッチもあります。

「ママともサロン0123（託児付）」 5/31～申込開始

震災後、さまざまな不安を抱えて福島県から仙台に引っ越してきたママたちでおしゃべりしませんか？

■日時：６月２９日（金）１０：３０～１２：３０
■場所：エル・パーク仙台和室（仙台三越定禅寺通り館５階）
■対象：福島県から避難してきた乳幼児をもつ母
■定員：１０名（子どもと一緒可）

【託児について】

■対象：生後６ヵ月～未就学児
■場所：エル・パーク仙台　子供の部屋
■料金：無料
■持ち物：おむつ、着替え、おしりふき、ビニール袋、お子さんの飲み物

ほんのたまご

本の読み聞かせメンバー募集

地域の方々と一緒に本の読み聞かせをしませんか？読み聞かせをして子供たちからパワーをもらったあとに仕事に向かうメンバーも少なくありません。興味のある方は、まずはお気軽に見学にいらしてください。

■日時：毎週木曜日　８：３０～８：４０
■場所：仙台市立南光台小学校
■問い合わせ：080-5223-3276（担当／大友由美子）